

夏季休暇期間中におけるアフリカ豚熱、口蹄疫等の 防疫対策の徹底をお願いします！

本年5月に中国でFMD発生、7月にベトナムの豚、韓国の野生いのししでのASF発生が確認されました。そのような中、新型コロナウイルスの人への感染が世界・各地で継続しており、日本を含む各国・各地域において渡航制限等の対策が講じられていましたが、6月に一部の国を対象に出入国制限を緩和する方針を決定しており、今後訪日外国人旅行者数が徐々に増加していくことが見込まれます。夏季休暇期間中においても、一層の緊張感をもって防疫対策にあたることが重要です。

～畜産農場および関係者の皆様へ 次の点にご留意ください～

畜産関係者等の海外渡航の自粛

- ✓ 新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の状況を踏まえ、現在(令和2年7月)全世界に対し、一律に不要不急の渡航を止めることが呼びかけられているところですが、家畜を飼養する皆様方もアフリカ豚熱(ASF)、口蹄疫等の発生地域への渡航は自粛するようお願いします。

消毒及び衛生管理区域への病原体の持込みの防止の再徹底

- ✓ 看板の設置等により、必要のない方が衛生管理区域若しくは畜舎に立ち入ること、又は不要な物を持ち込むことがないように配慮をお願いします。
- ✓ 農場の従業員も含め、衛生管理区域若しくは畜舎に立ち入る場合又は物を持ち込む場合には、手指の消毒、専用の靴の着用など必要な措置を実施するようお願いします。
- ✓ 病原体の侵入及び感染拡大の大きな原因となる野生動物の侵入防止対策として、防鳥ネット等の設置をお願いします。

毎日の健康観察、早期発見及び早期通報の徹底

- ✓ 感染拡大を防止するためには、毎日の健康観察と早期通報・相談が重要です。
- ✓ 豚熱(CSF)、アフリカ豚熱(ASF)、口蹄疫などについては、その特徴的な症状について、「特定症状」が定められています。
- ✓ 特定症状を呈している家畜またはその死体を発見したときは、当該家畜またはその死体の所在地を管轄する家畜保健衛生所に速やかに届出をお願いします。

神奈川県湘南家畜保健衛生所

〒259-1215 平塚市寺田縄 345

TEL 0463-58-0152 FAX 0463-58-5679

口蹄疫の特定症状 (牛・水牛・鹿・めん羊・山羊・豚・いのしし)

次の1～3のいずれかの症状を呈していること（鹿の場合、1では①・③に該当すること）。

- 1 次のいずれにも該当すること。
 - ① 39.0度以上の発熱があること。
 - ② 泡沫性流涎、跛行、起立不能、泌乳量の大幅な低下、または泌乳の停止があること。
 - ③ 口腔内等（※1）に水疱等（※2）があること。
- 2 同一の畜房内（1つの畜房につき1頭の家畜を飼養している場合は、同一の畜舎内）において、複数の家畜の口腔内等に水疱等があること。
- 3 同一の畜房内において、半数以上の哺乳畜（1つの畜房につき1頭の哺乳畜を飼養している場合は、同一の畜舎内において、隣接する複数の畜房内の哺乳畜）が当日及びその前日の2日間において死亡すること。

※1 口腔内等…口腔内、口唇、鼻腔内、鼻部、蹄部、乳頭又は乳房

※2 水疱等…水疱、びらん、潰瘍又は癬痕（外傷に起因するものを除く）

高病原性及び低病原性 鳥インフルエンザの特定症状 (鶏・あひる・うずら・きじ・だちょう・ ほろほろ鳥・七面鳥)

同一の家きん舎内において、1日の家きんの死亡率が、過去21日間の平均した死亡率の2倍以上となった場合。

ただし、高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの疑いを否定できない場合（※3）も連絡を！

※3 鶏冠、肉垂等のチアノーゼ、沈うつ、産卵率の低下等の症状を呈している場合
5羽以上の家きんが、まとまって死亡又はうずくまっている場合

【注意】

ただし、家畜（家きん）の飼養管理のための設備の故障、気温の急激な変化、火災、風水害その他の非常災害等口蹄疫（豚熱・アフリカ豚熱、高病原性鳥インフルエンザ）以外の事情によるものであることが明らかな場合は、この限りではない。

豚熱・アフリカ豚熱の特定症状 (豚・いのしし)

次の1～4のいずれかの症状を呈していること。

- 1 耳翼、下腹部、四肢等に紫斑があること。
- 2 同一の畜房内（1つの畜房につき1頭の家畜を飼養している場合は、同一の畜舎内）において、以下のいずれかの症状を示す豚が一定期間（概ね一週間程度）に増加していること（農場に浸潤している他の疾病によるものや、豚熱及びアフリカ豚熱以外の事情によるものであることが明らかな場合はこの限りでない）。
 - ① 40度以上の発熱、元気消失、食欲減退
 - ② 便秘、下痢
 - ③ 結膜炎（目やに）
 - ④ 歩行困難、後軀麻痺、けいれん
 - ⑤ 削瘦、被毛粗剛、発育不良（いわゆる「ひね豚」）
 - ⑥ 流死産等の異状産の発生
 - ⑦ 血液凝固不全に起因した皮下出血、皮膚紅斑、天然孔からの出血、血便
- 3 同一の畜房内において、一定期間（概ね一週間程度）に複数の繁殖または肥育に供する豚等が突然死亡すること。
- 4 血液検査を実施した場合において、同一の畜房内（1つの畜房につき1頭の家畜を飼養している場合は、同一の畜舎内）において、複数の家畜に白血球数の減少（1万個未満/ μ l）または好中球の核の左方移動が確認されること。（農場に浸潤している他の疾病によるものや、豚熱及びアフリカ豚熱以外の事情によるものであることが明らかな場合はこの限りでない）。